

## 国土の繁栄と平和をまもろう

本会は自衛隊員の激励及び慰問、退職隊員の就職協力等を行うと共に自衛隊の諸行事に協力し隊員との親睦を図り、防衛思想の普及並びに隊員の健全な育成発展に協力するを目的とする。



総会で挨拶する井上会長

## 第219号

令和4年7月1日

発行所 大阪防衛協会  
(541-0041) 大阪市中央区北浜3丁目5番19号  
淀屋橋ホワイトビル701号  
TEL 06-6202-8284  
E-mail:ek@ace.odn.ne.jp  
発行人 井上礼康  
編集責任者 上原康之  
印刷所 印刷 (株)DNPメディアサポート

## 3年ぶりの令和四年度会員総会終る

大阪防衛協会は令和2年、令和3年度の総会を新型コロナウイルス感染のため文書による決議を行つてきましたが3年ぶりに令和4年度会員総会を6月7日、自衛隊から中部方面総監堀井陸将、第3師団長荒井陸将以下20名、国会議員の伊東信久衆議院議員、石川博崇参議院議員ほか前国會議員代理を含む10名、並びに会員約150名のご参加を得て大阪のホテルで盛大に実施しました。

第一部議案審議、第二部総会行事、第三部講演会ではフジテレビ解説委員能勢伸之氏の「ウクライナ情勢と世界と日本の安全保障への影響について」と題して熱弁を振るつた。(2面に令和3年主要成果と令和4年事業計画掲載)

## 会長挨拶文

この度、大阪防衛協会令和4年度会員総会を迎えるに当たり、一言ご挨拶申し上げます。本日は、大変お忙しい中、堀井中部方面総監、荒井第3師団長、山本航空自衛隊幹部候補生学校長、吉田阪神基地隊司令を始め、陸・海・空指揮官等、並びに会員の皆様にご出席をいただきまして誠に有り難うございました。

大阪防衛協会の皆様におかれましては無事お過ごしのこととお慶び申し上げます。

陸・海・空自衛隊の皆様におかれましては東京・大阪において新型コロナウイルスワクチンの大規

模擬接種等感染防止に対処しつつ関連災害派遣や、中東における海上自衛隊の情報収集活動並びに日本周辺の警戒監視等の本来の防衛任務に邁進し、日本の平和と独立に日夜努力されていることに対し、心から敬意を表すとともに感謝申し上げます。

また、中部方面隊に約四千有余名の自衛官が入隊されたことをお聞きし心強いばかりです。

まず、大阪防衛協会の歴史を簡単に申し上げますと、昭和38年1月、北陸地方が大豪雪に見舞われ、交通が途絶し、福井

新潟地方が孤立したとき、関西からも自衛隊が出動し、約一ヶ月にわたり献身的な活動をされ

ました。しかし当時、世の中は未だ自衛隊に冷たく、労いの言葉もなかつた時代でしたので関西の気持を表すと同時に、自衛隊に対する国民の理解を深め、かつ激励しようという趣旨で、昭和39年2月24日に当協会が発足し、長きにわたり諸先輩や現在の会員一人一人の熱い気持ちが當々と引き継がれ、本年58年目を迎えることができました。その間、我が国を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。

皆様ご承知のとおり、一昨年初頭からコロナウイルス禍に見舞われ、世界中の国々がその対策を余儀なくされておりましたが、昨年は東京五輪及び今年の2月北京冬季五輪が実施されました。

そして本年2月24日にロシアのウクライナ侵攻が起り、現実に戦闘状態が続いております。

そのような状況にも関わらず島に対する領海侵入を繰り返し、ささらに台湾侵攻も着々と準備しつつ、西太平洋覇権獲得に動き続けております。

中国は軍備の増強拡大と尖閣諸島に対する領海侵入を繰り返し、この先は全く不透明であります。一方、ロシアは我が北

方領土を軍事基地化しつつあり、戦闘訓練とロシア海軍の対馬海峡航行が頻繁となつております。米国はバイデン政権が昨年一月誕生して「アメリカ第一主義」から「国際協調主義」に移行しつつありますが、世界の情勢はまぐらしく日々刻々変化して

「ロシアのウクライナ侵攻と世界及び日本の安全保障への影響」  
世界及び日本の安全保障への影響

フジテレビジョン上席解説委員 能勢伸之氏が講演

ウクライナ侵攻とロシア側の主張、極超音速ミサイルの登場とその影響、台湾海峡問題と米英仏の対応、日本の安全保障と米国の拡大抑止について能勢委員が編集解説する「日曜安全保障」の貴重な動画を駆使してウクライナ侵攻の意味と激変する世界情勢の去就、今後の日本の安全保障に関する多くの貴重な情報と教訓を学ぶことが出来た。(講演要旨第4面に掲載)

令和4年6月7日 大阪防衛協会会長 井上礼之

## 新入会員

(敬称略)

令和4年4月～6月

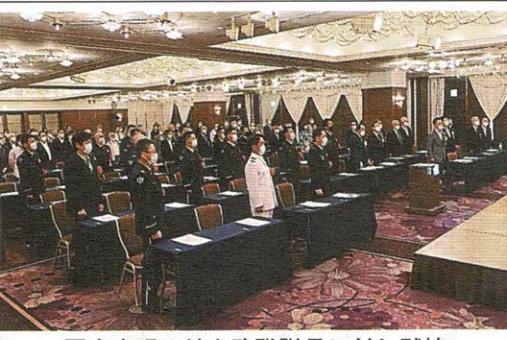
( ) は推薦者名

△賛助会員 副島之彦 (以上普通会員から)  
川端佳子 (今泉里司)  
櫻本政士 櫻野起秀 (以上IT)

△普通会員 松浪武久 (大部順子)  
木村裕之 (松永信夫)  
中原雅人 (再)  
大杉壽男 (蛇原)



議案審議



国家斎唱に続き殉職隊員に対し黙祷

主な記事 ( ) はページ  
○○○○ 全国防衛協会連合会要望書  
○○○○ 特別寄稿「日本への警鐘」(グレンコ・アンドリー)  
○○○○ 連載エッセイ「夕暮れの街」その95(梅谷忠洋)  
○○○○ 女心の防衛論「三代目」憂國論(堀江珠喜)  
○○○○ 総会風景講演要旨 行事メモ 事務局だより等

ウクライナの教訓と国を守る5つの柱  
第二次世界大戦が終焉した1945年から77年目、国際連合体制があつてNPT(核兵器不拡散条約)体制があり、曲がりなりにも比較的平和裡に解決されてきたが、一朝にして世界秩序が瓦解してしまつた。約4ヶ月たつが、連日一進一退の戦況と多くの内外の政治家や学者、評論家からウクライナの教訓として語り合われる。我々国民に知らされる。

大小様々な教訓を要約するならば、「常日頃防衛努力を重ね、自分の国を本気で守る国に對して世界はこれを助けようとする」である。

約五十年にわたり大阪防衛協会会長が連綿と自衛隊の記念行事や「まもり」紙上で訴えてきた国防を支える五つの柱のまず第一に、強い自衛隊が存在すること。対処力として当然。第二に、米軍の支援が可能であること。世界ナンバーワンの軍事力をを持つ米軍と同盟関係を強化していくこと。第三に、自衛隊が力を維持發揮できるよう産業・備・弾薬・燃料食料を得られる兵站の充実と人的資源の育成・確保である。第四に、あらゆる脅威・災害等非常事態に精神的・肉体的にも耐えうる個々の強靭な能力を養つておくことであり、そして最も重要な第五の柱は、国民に自分の国は自分たちで守る」という氣概と覚悟の存在である。ここに改めて大阪防衛協会の存在意義を再認識した。

ウクライナの教訓と国を守る5つの柱  
第二次世界大戦が終焉した1945年から77年目、国際連合体制があつてNPT(核兵器不拡散条約)体制があり、曲がりなりにも比較的平和裡に解決されてきたが、一朝にして世界秩序が瓦解してしまつた。約4ヶ月たつが、連日一進一退の戦況と多くの内外の政治家や学者、評論家からウクライナの教訓として語り合われる。我々国民に知らされる。

大小様々な教訓を要約するならば、「常日頃防衛努力を重ね、自分の国を本気で守る国に對して世界はこれを助けようとする」である。

約五十年にわたり大阪防衛協会会長が連綿と自衛隊の記念行事や「まもり」紙上で訴えてきた国防を支える五つの柱のまず第一に、強い自衛隊が存在すること。対処力として当然。第二に、米軍の支援が可能であること。世界ナンバーワンの軍事力をを持つ米軍と同盟関係を強化していくこと。第三に、自衛隊が力を維持發揮できるよう産業・備・弾薬・燃料食料を得られる兵站の充実と人的資源の育成・確保である。第四に、あらゆる脅威・災害等非常事態に精神的・肉体的にも耐えうる個々の強靭な能力を養つておくことであり、そして最も重要な第五の柱は、国民に自分の国は自分たちで守る」という氣概と覚悟の存在である。ここに改めて大阪防衛協会の存在意義を再認識した。

ウクライナの教訓と国を守る5つの柱  
第二次世界大戦が終焉した1945年から77年目、国際連合体制があつてNPT(核兵器不拡散条約)体制があり、曲がりなりにも比較的平和裡に解決されてきたが、一朝

# 令和三年度成果と 令和四年度事業計画について

## 令和四年度会員総会議案

令和三年度成果並びに事業  
計画の概要は以下のとおり。

### 一、全般成果概要

大阪防衛協会は「自衛隊員の

激励及び慰問、退職隊員の

就職協力をを行うとともに自

衛隊の諸行事に協力し、隊

員との親睦を図り、防衛思

想の普及並びに隊員の健全

な育成発展に協力する」こ

とを目的とし、例年通り5

項目を活動の重点として当

初計画したが、新型コロナ

ウイルスの影響を受け、当

初計画した事業のすべてを

行うことはできなかった。

主要な成果は以下の通り

(1)自衛官の激励慰問に関する

はPKO・災害派遣部隊に

対する激励慰問に該当する活

動支援はなかつたが、募集活

動に関連する部隊を協力支援

した。

大阪府下の入隊入校予定者に

対する激励、並びに中部方面

主要な成果は以下の通り

(1)自衛官の激励慰問に関する

はPKO・災害派遣部隊に

対する激励慰問に該当する活

動支援はなかつたが、募集活

動に関連する部隊を協力支援

した。

大阪府下の入隊入校予定者に

対する激励、並びに中部方面

主要な成果は以下の通り

(1)自衛官の激励慰問に関する

はPKO・災害派遣部隊に

対する激励慰問に該当する活

動支援はなかつたが、募集活

動に関連する部隊を協力支援

した。

大阪府下の入隊入校予定者に

対する激励、並びに中部方面

主要な成果は以下の通り

(1)自衛官の激励慰問に関する

はPKO・災害派遣部隊に

対する激励慰問に該当する活

動支援はなかつたが、募集活

動に関連する部隊を協力支援

した。

激励・支援	災害派遣・PKO部隊等激励	その都度	激励品等贈呈
	練習艦隊歓迎・激励	1回	歓迎会、記念品贈呈
	一般部隊激励慰問	その都度	WAC慰問品贈呈
	新入隊員等激励	その都度	入隊激励会・記念品贈呈
	入院患者見舞慰問	1回	見舞い、慰問品贈呈
	殉職隊員遺族弔問	1回	供花、弔慰金贈呈
	募集・援護協力	その都度	募集事業等に参加
	機関紙の発行	年4回	「まもり」発刊(年4回)
	講演会、セミナー実施	2~3回	講演会等の主催と協賛
	研修旅行	1回	連合会計画に参加
防衛思想普及	演習等見学	1回	総合火力演習見学
	企業研修	1回	防衛関連企業研修
	音楽隊協力	その都度	中方音楽まつり、定期演奏会協賛
	部隊・学校等行事協力	その都度	後援・主催・行事参加
	講演	要請による	初級幹部、部外等に対する講話
	青年部事業に対する支援	1回	防衛防災フェスティバル等
	当協会関連	その都度	会員総会、理事会、青年部総会等
会議	全国防衛協会関連	その都度	総会、理事会、青年部・女性部研修会

ペシャルコンサート」並びに  
関西安全保障セミナー「経済  
安全保障と米中関係」を協賛  
し、多くの参加者を得た。

(3)会勢の拡大に関しては、特別  
会員4社(退会5社)、賛助  
会員7名(退会11名)、普通  
会員29名(退会63名)の成果  
を得た。なお退会者が前年よ  
り上回ったのは新型コロナウ  
イルス感染のため諸行事が中  
止となつた点と会員の老齢化  
の影響が考えられる。

(4)会勢の拡大に関しては、特別  
会員4社(退会5社)、賛助  
会員7名(退会11名)、普通  
会員29名(退会63名)の成果  
を得た。なお退会者が前年よ  
り上回ったのは新型コロナウ  
イルス感染のため諸行事が中  
止となつた点と会員の老齢化  
の影響が考えられる。

(5)会勢の拡大に関しては、特別  
会員4社(退会5社)、賛助  
会員7名(退会11名)、普通  
会員29名(退会63名)の成果  
を得た。なお退会者が前年よ  
り上回ったのは新型コロナウ  
イルス感染のため諸行事が中  
止となつた点と会員の老齢化  
の影響が考えられる。

援し、その士気を鼓舞する  
とともにあらゆる機会を通じ  
て世論を啓発し、国民の防  
衛に関する理解と認識をさ  
らに深める。

(2)激変する内外情勢及び防衛  
の今日的意義・役割につい  
て世論を啓発し、国民の防  
衛に関する理解と認識をさ  
らに深める。

(3)各種事業を通じて自衛官並  
びに会員相互の親睦を図る。

(4)財政基盤に関する会員の募  
集を継続して行うことなどが  
出来た。

(5)会勢の拡大に関しては、特別  
会員4社(退会5社)、賛助  
会員7名(退会11名)、普通  
会員29名(退会63名)の成果  
を得た。なお退会者が前年よ  
り上回ったのは新型コロナウ  
イルス感染のため諸行事が中  
止となつた点と会員の老齢化  
の影響が考えられる。

祝電披露(メッセージ)  
以下の方々からメッセージを  
頂いた。

(4)事業細目表(左表のとおり)

(5)令和4年度予算案(省略)

四、役員改選(下表のとおり)

賛助会員

普通会員

プラス20名

プラス10名

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
理事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田田也  
監事潮江也  
監事辻輝也  
監事辻也

会長井上礼之  
副会長大坪文雄  
理事佐藤義雄  
理事長今西恭  
副理事長西村準二  
常任理事倉智英  
監事長今西川雅  
副理事長西村貞  
常任理事高木千代乃  
監事高木信吾  
副理事長寺田千代乃  
監事津田

ウクライナ戦争で明らかになつたのは「国際社会は自分たちで戦う覚悟のない国」です。今回は米国がいち早く確信的な情報を入手し、ウクライナ人でさえ信じなかつた頃から率先して「ロシアの軍事侵攻が本気である」と適切な情報発信をしてくれました。だからこそ、これまで国際社会は「(旧ソ連国同士の争いだから)双方に言い分があるだろう」と干渉を避けてきたものの、今回は「ロシアに非がある」という国際世論が構築され、国際的な連携も円滑に行われています。

そのおかげで、八年間も戦い続けてきたウクライナは全面侵攻に迅速に対応できました。ですが、肝心な重兵器(戦車や戦闘機など)の提供は、遅きに失した印象を拭いきれません。

それが原因で、現在世界で溢れ返っています。人間の人生は先ほど述べた①怒る②恐れる③悲しみなどを暗澹とするマイナス感情とすると、失敗を引き込みます。

「やあ、元気かい?」  
という挨拶から始まる日本が生んだ逸材! みなさんが名前くらいは何処かで聞いたことがあるかも知れません。その人物の名は中村天風先生その人です。しかし、ここ数年の日本、また世界の動向はウクライナ紛争を代表に、その元気さを完全に失い陰湿な邪気が漂い、周囲の者を「憤怒、恐怖、哀惜」といった人生

■絶対積極 現在の世界は、何が何が間違つかりませぬ。その教えを学んだ各界の著名人の中には松下幸之助氏など日本を代表する実業家も含まれています。

■絶対積極 現在の世界は、何が何が間違つかりませぬ。その教えを学んだ各界の著名人の中には松下幸之助氏など日本を代表する実業家も含まれています。

は全く元気のない歓びのないものになってしまいました。中村天風先生は、明治から昭和中期にかけての日本の実業家であり、思想家で、自己啓発の講義や講演を各地で行い、日本の政治経済、軍事に多大な影響を与え、中華民国の革命の父孫文の友人でもありました。

その縁もあって中華民国最高顧問の称号も得てあります。その教えを学んだ各界の著名人の中には松下幸之助氏などを代表する実業家も含まれています。



連載エッセイ

## 夕暮れの街 その95

新渡戸稻造・武士道

(83)

M&amp;Uスクール学長 梅谷忠洋

(83)

戦争で明らかになつたのは「国際社会は自分たちで戦う覚悟のない国」です。今回は米国がいち早く確信的な情報を入手し、ウクライナ人でさえ信じなかつた頃から率先して「ロシアの軍事侵攻が本気である」と適切な情報発信をしてくれました。だからこそ、これまで国際社会は「(旧ソ連国同士の争いだから)双方に言い分があるだろう」と干渉を避けてきたものの、今回は「ロシアに非がある」という国際世論が構築され、国際的な連携も円滑に行われています。

そのおかげで、八年間も戦い続けてきたウクライナは全面侵攻に迅速に対応できました。ですが、肝心な重兵器(戦車や戦闘機など)の提供は、遅きに失した印象を拭いきれません。

戦車ミサイル「ジャベリン」、対ヘリミサイル「ステインガーラー」が中心でした。当初、西側諸国はウクライナがロシアの大規模侵攻に敗北し、ゲリラ戦で抵抗すると予想していたので、兵士が携帯できる小型の兵器を提供したのです。戦争

は、ウクライナが予想外に善戦していると判明した一週間後。それでも三月上旬は、ゲリラ戦用の携帯武器がメインで、重兵器の提供については四月に入つてようやく議論が開始された。「今やバイデン大統領は

大戦でナチス・ドイツと交戦したら、みんな、元気までなくしてどうするのだ。この大宇宙は隅々まで「氣」で満ちている。その気が人間に注がれた時、元気がムクムクと湧きだしてくるんだ。もつと元気になる生き方をしようじゃないか」「氣」が最も注がれる生き方。これを「絶対積極」といいます。

①怒る ②恐れる ③悲しむ

こうした消極的な心を積極的にすることなしに、物事は成就しない。やること三つの「消極精神」を挙げています。

否かで決定されるのです。従つて、人生にマイナスの事象が起きても、それに対する自分の心が積極的な處する自分が積極的なことで、まず、自分の中に存する「消極精神」を「絶対積極」でしまうことがあります。天風先生の信奉者の最右翼であつた松下幸之助氏は、「事にあたつて、ゆき詰まる」ということはない。ゆき詰り、奇跡が起きるのです。

天風先生の信奉者の最右

翼であつた松下幸之助氏は、

「経営の神様」の言葉に、

「やあ、元気かい?」

